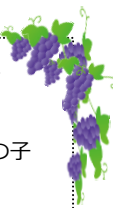


- 
- 11 シャファンの子ゲマルヤの子ミカヤは、その書物にあるすべての【主】のことばを聞き、
 - 12 王宮にある書記の部屋に下ったが、見よ、そこには、すべての首長たちが座っていた。
すなわち書記エリシャマ、シェマヤの子デラヤ、アクボルの子エルナタン、シャファンの子ゲマルヤ、ハナンヤの子ゼデキヤ、およびすべての首長たちである。
 - 13 ミカヤは、バルクがあの手紙を民に読んで聞かせたときに聞いた、すべてのことばを彼らに告げた。
 - 14 すべての首長たちは、クシの子シェレムヤの子ネタンヤの子ユディをバルクのもとに遣わして言った。「あなたが民に読んで聞かせたあの手紙、あれを手に持って来なさい。」そこで、ネリヤの子バルクは、手紙を手に持って彼らのところに入って来た。
 - 15 彼らはバルクに言った。「さあ、座って、私たちにそれを読んで聞かせてくれ。」そこで、バルクは彼らに読んで聞かせた。
 - 16 そのすべてのことばを聞いたとき、彼らはみな互いに恐れおののき、バルクに言った。「私たちは、これらのことばをすべて、必ず王に告げなければならぬ。」
 - 17 彼らはバルクに尋ねて言った。「さあ、あなたがこれらのことばをすべて、どのようにして書き留めたのか、私たちに教えてくれ。エレミヤが口述したことばを。」
 - 18 バルクは彼らに言った。「エレミヤがこれらのことばをすべて私に口述し、私は墨でこの書物に記しました。」
 - 19 すると首長たちはバルクに言った。「行って、あなたもエレミヤも身を隠しなさい。あなたがたがどこにいるか、だれにも知られないようにしなさい。」

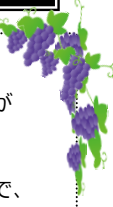
* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



「 巻物を書くようにとの命令 」

| エレミヤ書講解-71 | エレミヤ書36:1~ 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 36章 】

- 
- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、【主】からエレミヤに次のようなことばがあった。
 - 2 「あなたは巻物を取り、わたしがあなたに語った日、すなわちヨシヤの時代から今日まで、わたしがイスラエルとユダとすべての国々について、あなたに語ったことばをみな、それに書き記せ。」
 - 3 ユダの家は、わたしが彼らに下そうと思っているすべてのわざわいを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすれば、わたしも、彼らの咎と罪を赦すことができる。」
 - 4 それでエレミヤは、ネリヤの子バルクを呼んだ。バルクはエレミヤの口述にしたがって、彼に語られた【主】のことばを、ことごとく巻物に書き記した。
 - 5 エレミヤはバルクに命じた。「私は閉じ込められていて、【主】の宮に行けない。
 - 6 だから、あなたが行って、あなたが私の口述によって巻物に書き記した【主】のことばを、断食の日に【主】の宮で民の耳に読み聞かせよ。また、町々から来るユダ全体の耳にもそれを読み聞かせよ。
 - 7 そうすれば、【主】の前で彼らの嘆願が受け入れられ、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。【主】がこの民に語られた怒りと憤りは大きいからだ。」
 - 8 そこでネリヤの子バルクは、すべて預言者エレミヤが命じたとおりに、【主】の宮で【主】のことばの書物を読んだ。
 - 9 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第五年、第九の月、エルサレムのすべての民と、ユダの町々からエルサレムに来ているすべての民に、【主】の前での断食が布告された。
 - 10 そのときバルクは、主の宮で民全体に聞こえるように、その書物からエレミヤのことばを読んだ。そこは、主の宮の、新しい門の入り口付近の上庭にあった、書記シャファンの子ゲマルヤの部屋であった。

(4ページへ続く)

◆ はじめに

1. 前回の復習（順序の訂正）

(1) エレミヤ書における7つのアウトラインの確認（30～31章が一番前に来る）

*この箇所は7つの内の ④12部族の将来（30～39章）

- a. レカブ人の忠実さに見習う（35章）
- b. 記された巻物と王たちの反応（36章）
- c. イスラエルの回復と希望（30～31。32～33章）
- d. ゼカリヤ王への預言（34章）
- e. ゼデキヤの祈りの要請と逮捕（37章）
- f. 獄中からの解放と召し（38章）
- g. エルサレム陥落と忠実な者の運命（39章）

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

正しい権威に忠実な者

*このメッセージは、正しい権威を見極め、知恵を働かせるためのものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I 巻物を書くようにという命令（1～8節）

1. 神のことは書き記せ（1～3節）

(1) 時代背景

- ①ヨシヤの子エホヤキムの第4年（1節）
- ②前605年はネブカデレザルがバビロン王に即位した年
- ③エレミヤが捕囚は70年続くと預言し始めた年）25章

(2) 命令の内容と理由

- ①ヨシヤの時代から今日までの間に啓示された預言を巻物に書き記せ
 - *25年間に啓示を示され語ってきたことの全て
 - *預言を文字にして残す理由は、神のことは明確に民に伝えること
- ②民はエレミヤのことは聞いても、それを記憶にとどめるしか方法がなかった。
 - *しかしその方法は非常に不確かであった。
- ③さらに、民がさばきの預言を聞いて悔い改めるためである。
 - 民が悔い改めるなら、神は罪を赦そうとしておられた。



2. 書記バルクの任命（4～8節）

(1) エレミヤはネリヤの子バルクを呼び、口述した預言を書き記させる。

- ①バルクはエレミヤ書32：12～15に出て来た人物である。
- ②エレミヤの場合は、後述した内容を書簡に書かせている。（例：ロマ書）
 - *預言者の中には自ら預言を書き記す者もいたが、
- ③過去25年間に語ったすべてを書き留める。相当の時間はかかっただろう。

(2) 完成すると、それを神殿で読み聞かせるようにバルクに命じる。

- ①バルクを派遣する理由：エレミヤ自身は神殿への出入りを禁じられていたから

2 参照 エレミヤ書、19：1～20：6、26章が原因

2021.11.7

II 首長たちの反応（9～19節）

1. 霊の目を開かれた首長たち（9～16節）

(1) バルクはエホヤキムの第5年に神殿の一室で巻物の預言を読んで聞かせた。

- ①断食が布告された時（恐らくバビロンからの守りを求めて祈りを捧げた）
- ②エレミヤの口述から一年が経過した頃。
- ③書記シャファンの子ゲマルヤの部屋（この家系は霊的な人々が多い）
 - *ミカヤはシャファンの孫である。
- ④バルクから預言を聞いたミカヤは、その内容を首長たちに伝える。

(2) 首長たち（好意的なリーダー）はバルクを召喚し、巻物を読ませる。

(3) 首長たちは重大性を認め、一部始終を王に報告する。

2. 首長たちの知恵（17～19節）

(1) ただちにバルクを召喚して、行動に出たこと。

(2) 巻物がどのように記録されたのか、事実関係を確認する。

(3) ただちにエホヤキム王に報告している。

(4) バルクとエレミヤに万が一のことがないように配慮し、身を隠させた。

- ①26：23では預言者ウリヤの悲劇の記事があった。

◆ まとめ：正しい権威に忠実な者

1. エレミヤ、バルクと首長たちの共通点

- (1) 正しい権威を見極め、その権威に忠実であったこと
- (2) 王にも忠実でありながら、主の究極的な権威に忠実に従った。

2. 神のことが伝えられる4ステップ

- (1) 神が啓示する。
- (2) エレミヤが口述した内容が残される。
- (3) バルクが読み聞かせる。
- (4) 民が聞いて悔い改める。

*今日の神のことも同様の構造を見出すことができる。

3. 現代の説教者は何を語っているか

- (1) みことばを語る際の、真の権威者は主である。
 - *上記の（1）（2）は既に終わり、私たちは3であり4である。
- (2) 使徒や預言者の賜物は既にその役割を終えた。
- (3) 主にあって語り、主の働きかけを期待する信仰による。